

変えていかなければならない。

4. 時代の流れとともに、作業の能率化、合理化、機械化が進むにつれ、予期し得ない、災害あるいは職業疾病の発生も考えられる。

そのためには、日頃からこうした災害の未然防止に細心の注意を払い、働く人達が不安感を抱かない職場にしてこそ、作業能率あるいは労働意欲の向上につながるものとする。

5. 一つの事をなし遂げるには、年月がかかることを肝に銘じて、取組まなければならない。

これが真の安全管理であると思う。

これを先取りした、安全対策と指導に全力を傾注しなければならないと考える。

当面の課題は、腰痛予防と治療法を定着させ、明るい職場環境作りのうちこんでまいりたいと考えている。

以上担当者として、今まで推進してきたことを発表し、皆様御批判を仰ぎたい。

助 言

発表された成果をいかに現場に浸透し、定着させるかが今後の大きな課題である。

今後、その方法等について研究を継続し、広く普及を図られたい。

無災害に挑戦したこの一年

大町・小谷担当区事務所 村 松 剛 志

筒 井 茂 夫

はじめに

昭和53年度大町営林署業務方針の柱の一つである労働安全の確保(無災害職場の達成)に向かって、わが小谷担当区全員が一丸となってこの一年間挑戦してきた結果、悔いのない一年にすることができた。これからは災害のない明るい職場作りに精進したいものと願いながら、平凡な日々連続ではあったが、永遠の目標である無災害に向かって、長い道程の一過程をここに発表したい。

1 結果と反省

過去10か年間の統計をみると、表-1・1のとおり署全体で23件、うち小谷担当区が11件となっておりその比率は48%である。また、育林事業でみる限り16件中11件で69%である。特に昭和52年度は、署全体の発生件数4件が全部担当区の件数という誠に残念な結果に終始した。これは担当区だけが地形も条件も劣悪というものではなく、管内他担当区部内も大同小異であることから、昭和53年度業務開始期に何回も安全懇談会を開いて、安全を確保しながら業務を完遂する道はないものだろうかと、安全推進員を中心にみんなの知恵を集め模索を重ねた。その中でまず過去のことを知る必要が生じたので、今までの内容を洗い出してみた結果、表-1・1～2、図-1・1～2のとおりと

なった。

表-1・1 過去10年間の災害発生件数

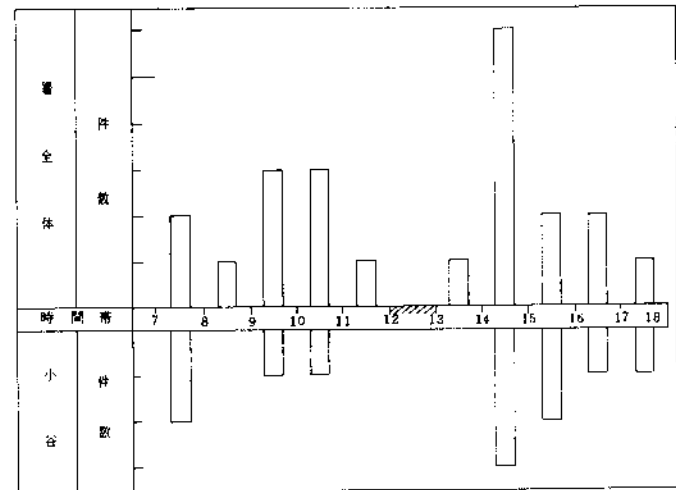
事業	年度										計
	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	
育 林		1	1 (1)	1 (1)	4 (2)	1		1 (1)	3 (2)	4 (4)	16 (11)
治 山		1				1	1	1			4
厚 生									1		1
取 獲		1									1
そ の 他									1		1
計	0	3	1 (1)	1 (1)	4 (2)	2	1	2 (1)	5 (2)	4 (4)	23 (11)

(注)、( )書は小谷担当区の分

表-1・2 担当区別発生件数

担当区等	松 川	高 瀬	鹿 島	白 馬	小 谷	姫 川	署	計
件 数	3	1	2	0	11	3	3	23

図-1・1 公務災害発生時間別件数



当署の場合、有林事業が主体のため、災害総件数に対する有林事業の占める割合が多くなっていることが判明した。また、災害発生時間帯からみると10時前後、15時前後が多くなっており、これらも一般的傾向とほぼ類似している。

次に発生曜日をみると、金曜日が多く月曜日が少ないこともわかった。

図-1・2 曜日別発生件数

種 類	全 体		小 谷	
	曜日	件数	曜日	件数
共 通	月	1	月	1
	火	1	火	1
	水	1	水	1
	木	1	木	1
	金	1	金	1
	土	1	土	1
	計	7	7	7

Ⅰ 今年目標と実践

毎年無災害を指向し努力をしてきたが、結果として他担当区に比べ何倍もの件数となっている原因は

- ① 安全教育の不足
- ② 実践活動が不十分
- ③ 安全意識の欠如

などを挙げることができる。そこで今年こそは全員の努力・協力で無災害の金字塔を打ち立てようと年度当初全員で誓い合った。そして署計画を具体化した次の4点を担当区の柱とし安全活動をしてきた。

1. ミーティングカードの活用

大町営林署では昭和49年度以来各現場ごとに毎朝短時間のツールボックスミーティングを実施し、話し合った事項をカードに記録し、安全懇談会や反省会の際に活用している。表-1・3のとおりであり、主なものを拾ってみると

共通部門では

- (1) 健康管理
- (2) 気持のひきしめ
- (3) 交通安全

行動に関しては

- (1) 作業動作
- (2) 現場における状態
- (3) 通勤注意

施設に関しては

- (1) 足場の注意確保

(2) 危険か所の指示整備

(3) 作業環境点検整備

などが多く話し合われているので、健康管理・作業動作・足場の確保に気をつけ、図-1・2にみられるように下山前日の金曜日には十分気をつけるよう相互注意運動を重点において活動した。

表-1・3 ミーティングカード実施結果

類 別	担当区 種 年 度	松 川		鹿 島		白 馬		小 谷		姫 川		計	
		5 2	5 3	5 2	5 3	5 2	5 3	5 2	5 3	5 2	5 3	5 2	5 3
共 通	健 康 管 理	24	18	34	47	48	53	29	27	19	7	154	152
	精 神 の け ん せ い	8	1	12	10	22	13	4	21	15	8	61	53
	交 通 安 全	13	9		4	31	15	16	1	4	4	64	33
	健 診 に 関 する も の			1			1	1	1			2	2
	計	45	28	47	61	101	82	50	50	38	19	281	240
	行 動 に 関 する も の	通 勤 注 意	5	17	1			30	7	8		3	13
作 業 器 具 の 点 検 整 備		4	13	16	35	28	50	6	15	4	5	58	118
作 業 に お け る 姿 勢				1		1						2	
作 業 に お け る 服 装			4		3	2	1		3		2	2	13
用 具 ・ 保 護 具 の 適 正 使 用		4	2	11	3	8	8	6	8	4	7	33	28
作 業 現 場 に お け る 状 態		5	22	5	27	37	37	4	8	2	17	53	111
共 同 作 業 の 連 携			4		6		2		4	1	4	1	20
計		18	62	34	74	76	128	23	46	11	38	162	348
施 設 に 関 する も の	用 具 ・ 保 護 具 の 点 検 整 備	1	2		7	8	4	5	1	3	5	17	19
	足 場 に 対 す る 注 意 確 認	42	50	89	90	64	57	40	56	10	17	245	270
	危 険 か 所 の 指 示 整 備	7	8	1	1	12	19	16	18	20	15	56	61
	作 業 環 境 点 検 整 備	16	5	21	1	5	11	11	8	13	17	66	42
	安 全 施 設 等					2	1			1		3	1
器 具 の 適 正 使 用				2	2					1	2	3	
計	66	65	111	101	93	92	72	83	47	55	389	386	

## 2. 特定安全日の設定

毎月一回月の半ば（15日前後）に特定安全日を設け、安全に対する意識の高揚を図った。特定安全日には安全懇談会を開き、今までの反省をし、安全衛生についての再確認をしてきた。

## 3. バイオリズムカレンダーの活用

人間は生まれながらにして三つのリズム（身体・感情・知性）により、その日の体調が決まるといいう学説がある。そこで過去の災害事例をバイオリズムカレンダーで追ってみると、要注意日に起きた災害が全体の26%6件、要注意日の前後に起きた災害が39%9件であり、合わせて65%（小谷担は73%）の高率であった。この結果から皆が安全とバイオリズムカレンダーに対し関心を持ったので、これを取り入れ、各人のカレンダーを作って掲示し、変動期には特に気をつけて作業に取り組んだ。

## 4. 交通安全

図-1・1にある就労時間外の3件は、通勤途上における災害である。車時代であるが故に、みんな法令を遵守し、条件の悪い林道等においては徹底した安全運転に努めようと話し合い実践してきた。

以上4点を柱にし、全員の協力と、実践しようとする熱意や努力が実を結んで、52・11・17以降無災害を続けることができた。

## ■ 今後の課題

今年度もあと2か月、ここまでできた記録を更に延ばして行かなければならないが、ただ単に記録にこだわることではなく、健康で健全な身体をもって安全を確保しながらスムーズな業務の進行に努めたい。そのために

1. 安全教育の充実
2. チームワークの醸成を更に強める
3. 相互注意運動の推進
4. 交通安全に徹する

等に重点をおき、安全日誌やミーティングカードの改善を図り、潜在災害を究明しながら安全確保を業務の大きな柱として推進していきたい。

## おわりに

今まで災害が多かった現場で一年間無災害を続けることができたのも、全員の努力と英知の賜物であったし、また、はかり知れない喜びをも知ることができた。この喜びは明るい職場・楽しい家庭作りにつながり寄与するところが多かった。人間誰もが願う「健康と安全」を永続させたい。これの推進と緑したたる山作りにより一層まい進したいので、多くの皆さんから積極的な御助言と御指導をお願いしたい。

---

## 助 言

安全に取り組む積極的な姿勢は高く評価できる。今後、過去の災害の分析、反省から安全活動をいかに実行に移すかのシステム化等について研究を継続されたい。